

1 背景

- ・外国人市民の増加(H28：841人→R2：1,159人)
- ・外国人への支援体制が不十分

長久手で暮らす外国人に必要な支援とは？

2 課題

「多文化共生に関するアンケート調査 調査結果報告書」(2019)より

1 生活者としての支援

「あなたが不安に感じていること、困っていることはありますか？」

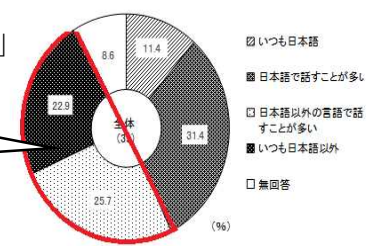
居住年数	日本語でのコミュニケーション	けが等緊急時の対応	生活情報の入手
～6か月	53.8	23.1	23.1
6か月～12か月	54.5	18.2	27.3
1年～3年	44.8	13.8	27.6
3年～5年	42.1	42.1	15.8
5年～10年	38.9	44.4	5.6
10年～15年	13.6	9.1	4.5
15年～	23.5	21.6	2.0

日常会話、地域で生活する上で必要な日本語学習

2 子どもへの支援

「あなたは子どもに何語で話しますか？」
(0～6歳までの子どもがいる家庭)

約50%の家庭の日常会話が日本語以外



学校生活における支援 (日本語教育・学習支援)

3 内容

“日本語教育”を中心とした計画

地域における日本語教育
・生活者としての日本語支援の必要性

学校における日本語教育
・学習支援の必要性
・支援体制のスキーム作り

4 スケジュール

- 7月 第1回策定委員会 (課題、取組等意見出し)
- 9月 第2回策定委員会 (素案提示→修正)
- 10月 タウンミーティング (ワークショップ)
- 11月 第3回策定委員会 (最終案提示→修正)
- 12月 パブリックコメント
- 1月 プラン完成

5 タウンミーティング

- ・愛知県と共催
- ・前半は基調講演で課題を提起し、後半はその課題についてワークショップを実施

